

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム向陽台(4階・どんぐり)	評価実施年月日	平成20年10月31日
評価実施構成員氏名	水谷 祐子                  栄 静子                  永田 鮎美 佐々木 志朱子          大瀧 わかな              村部 幸子 松本 可菜美              布川 裕子		
記録者氏名	水谷 祐子	記録年月日	平成20年10月31日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	一人一人の個性と生活リズムを尊重し、住み慣れた地域の中で安心した暮らしをしていただくという理念を作り上げている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に目に入る場所に掲示し、日々の申し送り、会議、カンファレンス等で確認し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には契約時に理念について説明し理解していただいている。又、毎月配布される広報誌にも理念を掲載し、家族・地域の方にも理解していただける様取り組んでいる。	○	ホームを理解していただく為にも、パンフレットや広報誌の配布場所を広げていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方が山菜や野菜等を持ってきてくださったり、花の球根を持ってきてくださり、ホームの花壇作りを一緒に行う等の日常的な付き合いが出来ている。	○	近隣の方が気軽に立ち寄ってくれて、入居者との会話が多くなる活動を期待したい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地元のお祭りやサークルに入居者と共に参加し交流を図っている。又地元中学生の体験学習の受け入れも行っている。	○	老人会に加入していた入居者もいるので、交流を深めていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	実践内容を踏まえて広報誌に豆知識を記載し、暮らしに役立つ様取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>全職員に評価の狙いや活用方法について説明し、理解した上で取り組んでいる。又改善に向けての具体案を実践出来る様、全職員で取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1度ホームの活動内容を報告し、意見・要望等を話し合い、サービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>定期的に行われる地域ケア会議や訪問・電話等で課題解決の為の支援をいただいている。</p>	○	関わりを多く持てる様、会議等に参加していく。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>一部の職員が研修に参加しているが、全職員が理解し、支援できる体制が万全とはいえない。</p>	○	理解出来る様、研修の機会を作る。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待についての研修を行い、「行わない」という意識を常に持ち対応している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時にホームの方針や重要事項について十分時間を取り説明し、理解していただいている。入居者や家族に不安や疑問点にもわかりやすく説明し、同意を得て手続きを進めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者からは日常の会話を通じ不満・苦情等の訴えは見られていない。職員は入居者の言葉や態度から思いを察する努力をし、不安・意見等は職員間で共有できており統一したケアが行えている。</p>	○	<p>個人ノートに「気付き」の記録を多くしたい。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月の広報誌の発行や写真入りの手紙を送っている。又ケース記録を見てもらいサインを頂いたり、病院受診後には電話にて様子を伝える等、連絡を密にしている。金銭管理は出納帳に記入し領収証を送付している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時や家族参加の会議や行事等で意見を聞く様にしている。尚、出された意見や要望に関しては全職員で話し合い反映させている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や研修、個人面談等の機会を設け、意見や要望を聞いている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者の活動時間に合わせシフト表を作成し、必要に応じて柔軟な体制を組んでいる。又突発的な対応にも他のユニットと協力し合い勤務の調整を行っている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心掛けている。やむを得ず離職する職員がいる際は、その時期や引継ぎ等で最善の努力をしている。</p>	○	<p>各ユニットの職員・入居者が気軽に行き来出来る雰囲気作りをしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>外部研修には経験年数に応じて参加している。参加後は、報告会等を開催し全職員に発表し閲覧出来る様にしている。内部研修も定期的に行い、テーマも職員の関心のあるものを職員により決めてもらうことで取組み易いものになっている。</p>	○	外部研修の参加を多くしたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域ケア会議の中で同業者同士の意見交換を行っている。又他施設の行事等に参加し、ネットワーク作りの取り組みをしている。</p>	○	今後も交流を継続していき、意見交換等を頻繁に行いたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員同士お互いに色々話し合える関係を作っており、又月一回程度親睦会を開いている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者は頻繁に現場に来られ、職員一人一人に目を向けており、日々の勤務でも「見てくれている」という実感のある声掛けをしている。資格取得に向けた支援も行われている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>受付相談で本人が伝えようとしていることを傾聴し、しぐさや表情から察する様になっている。又職員間で知り得た情報は共有する様になっている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族の訴えを聴き、サービスの内容を理解した上でサービスを行い、安心した環境・雰囲気作りを努めている。又家族とのコミュニケーションを深めていく様常に関わりを重視し報告・連絡を欠かしていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や家族の思い・要望を基にして対応に努めている。対応が困難とされた時には、適切な機関の紹介を行う等している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族にはホームを見学して貰い、雰囲気やサービス内容を理解していただいた上で入居していただいている。本人の不安を軽減する為にも家族の面会を増やしたり、今までの生活習慣等を聴き、職員との馴染みの関係を築いて行く様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護する側には立たず、一緒に過ごし、言葉やしぐさから感情を共有したり共感し合ったり支え合える関係作りに努めている。入居者の長所を活かし、そこから職員は学び共に成長して行く努力をしている。	○	コミュニケーションは取れているが、心からわかり合える関係ではないので、共に過ごす時間を多くして互いに支え合い安心出来る関係を築きたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	普段から状況・様子を家族に伝え、以前の本人の様子を聞いたりし、本人が良い方向へと向かって行ける様協力し合って支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ホームでの行事に参加していただいたり、普段の生活の様子を伝える等家族の役割をなくしてしまわない様働き掛けている。	○	本人の若い頃の写真や、家族との写真等で「あの頃は・・・」等の会話を弾ませていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前からの友人・知人等の面会も多く、又その場所へ出掛けたりして交流の関係が途切れない様努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員全員が入居者の関係を把握しており、孤立しない様さりげなく仲介したり、一人一人が楽しく生活していただける様支援している。又一緒に行うという団結の芽生えやすい環境作りにも取り組んでいる。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も近くに来た際にて立ち寄ってくれる等、気軽に来訪出来る関係を築いていける様努めている。	○	行事やボランティアにも参加して頂ける様な関係を築いていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の会話や言動から気持ちを察し、話を聞く様にしている。コミュニケーションが困難な場合は、表情や行動から感じ取り、家族と協力し合い把握する様に努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の基本情報として本人や家族から聞き、生活環境を把握している。日々の生活の中で会話や馴染みの関係作りから新たに発見し、情報把握に努めている。	○	家族との連絡を密にし、多くの情報を収集していきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者の日々の暮らしを記録や見守り・職員の情報共有等から総合的に把握し、個人の能力を理解出来る様取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者がその人らしい生活が送れる様本人・家族の意見・要望を取り入れ、職員全員でアセスメント・カンファレンスを定期的に行い、様々な意見を出し合っている。総合的に判断し、介護支援専門員の監理の基、ケアプランの作成を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員と介護支援専門員とでケアプラン実施期間の目標はどのくらい向上しているか、又は悪化していないかを話し合いモニタリングを行っている。又入院等状態変化が生じた場合は、新しい課題への取り組みを本人・家族と共に行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別台帳や個人ノート等に日々の状況を行動面だけでなく、言葉やしぐさをありのまま記入することで、入居者本人の要望等垣間見ることができ情報を共有出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力病院の協力により入居者の健康管理を行い、入院した際は早期退院に向け対応している。又ホームの建物を利用し、家族や地域の方の参加行事に提供し、交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方が定期的に面会に来てくださったり、地域の方がボランティアで行事に参加して下さっている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望に応じて訪問理美容サービスを定期的に利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されており、相談時には随時対応出来る関係を築いている。又成年後見制度利用の手続き等相談したり、地域での入居希望の方の相談を受けたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院から2週間に1度往診を受け、入居者の健康管理を行っている。何かあった時には、医師からの指示を仰ぎ対応している。又入居前からのかかりつけ医を希望している方には家族対応にて受診を行っているが、その際ホームでの状況を医師に手紙又は電話にて報告している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院に相談し、必要があれば専門医を紹介していただき受診対応を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護師が随時相談に乗ってくれている。開設以来からの担当看護師で、入居者一人一人の状況を理解してくれており、常に迅速且つ適切な指示をもらっている。。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には入居者のフェイスシートを提供し、混乱を招かない様になっている。又医師との話し合いには家族と共に職員も参加し、早期退院に向けてアプローチし協力を努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人や家族の意向を尊重し、職員と共に話し合い、方針を決めている。又契約時にはホームで出来る最大限のサービスを説明し理解していただいている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向を踏まえ医師と職員の連携を密にし、その内容については全職員が把握している。又利用者が安心してもらえる環境作りに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	別の居宅へ移られる際には、入居者の生活状況や支援内容等を情報提供書に記入し関係先へ渡している。状況変化で混乱が最小限に防げる様努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシー確保の為、他入居者やその家族・面会者には個人情報に注意し対応している。日常、申し送りも他者に聞こえない様配慮し、声掛け等もさりげなく対応している。個人台帳等はスタッフルームに保管し、部外者の目の届かない様に十分配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合わせた声掛けや説明を行い、出来るだけ自己決定をしていただいている。入居者一人一人の意思を尊重し、食べたいもの、行きたい場所、服装等選択している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や食事・入浴・買い物等一人一人のペースに合わせて、入居者のこれまでの生活リズムを尊重し、ストレスのない生活を送れる様努めている。	○	もう少し入居者のペースに合わせて生活出来る様心掛けていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の好みを重視し、その人らしい身だしなみができる様支援している。理・美容は毎月1度訪問理美容サービスを行っており、カットや紙染等希望にて対応している。又行きつけの美容室に希望される方には車での送迎を行っている。	○	習慣を乱すことなく、その人らしさを損なうことのない様支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は入居者と一緒に作っている。調理・盛り付け・配膳・片付け等一人一人の能力に合わせた作業を行い、職員と会話をしながら楽しんでいる。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の好みを本人や家族から聞きおやつを購入したりして個人の自由を尊重している。喫煙は、リビングの中に喫煙スペースを設けることで他者の迷惑にならない様配慮している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握し、羞恥心等を配慮しながらトイレ誘導やおむつ交換を行っている。尿意の訴えが困難な入居者は、しぐさや動作で察知し、定期的なおむつ交換を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の入浴状況を考えたり、希望を取って決めている。入浴前にはバイタル測定を行い体に負担のない様対応している。体調不良等で入浴出来ない際は、清拭や足浴等に対応し、リラックスしていただいている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活リズムや日常の活動量を把握し、自由に居室に戻り休息・入眠出来る様支援している。眠剤使用中も中止する方向で全職員が取り組み、偽剤等使用し自然の眠りを促せる様対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の得意な事や出来る事を見つけ、日常の活動の中に取り入れて行うことで出来る喜びや達成感を感じていただいている。又以前からの趣味も継続していただき、楽しみを感じてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望によりホーム側で入居者の金銭管理を行っているが、外出行事でのショッピングの際には、一人一人の能力や希望に応じて支払いが出来る様支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調や希望に応じて外出の機会を設けている。散歩や買い物又は家族に会いに行く際の支援を職員又は家族の協力にて行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人一人の希望に沿う様努力し、本人の希望を家族へ伝える等してお墓参りや家族の所へ出掛けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームの電話はいつでも使用することが可能で電話されたりしている。又居室に電話を設置したり、携帯電話等を使用されている入居者もいる。家族からホームにかかってきた電話には可能であれば本人も応答されている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会に来られた際、いつでも居心地よく過ごせる様居室での談話はもちろんのこと、リビングにおいても他入居者との交流も出来る様な雰囲気作りに配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が身体的・精神的拘束は入居者の弊害になることを理解しており、入居者が安全と安心で生活出来る様支援している。又内部研修等にも取り入れ、身体拘束は行わないことで徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室の鍵かけは入居者本人の意向により行われていることがあるが、職員からは行っていない。玄関の鍵においては防犯の為施錠はやむを得ず行っているが、中からはいつでも開けることが出来る様にしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の状況をさりげなく把握する様にしており、夜間も定期的な見守りや巡回を行い安全な生活が出来る様に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者一人一人の管理能力に応じて、刃物・洗剤・薬品の管理を行っている。ホーム側で保管する際には、本人の活動意欲がなくなる様配慮し、必要な時には貸し出し・見守りにて使用していただいている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	会議の中で事例を挙げ、起こりうる事故を想定し注意を促している。ヒヤリハットの報告から事故につながらない様職員全体で取り組み事故の未然防止に努めている。	○	事故を予測し、回避出来る実践力を身につけたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し、対処方法について適切に行える様万々に備えている。又救命救急の講習会にも順次参加する様にしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、定期的に避難訓練や消火器の使用訓練を行っている。地域には運営推進会議の際に協力を呼びかけを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	入居者一人一人の身体状況を把握し、起こりうるリスクについて家族に説明し納得して いただいた上で、協力を得ながら本人の意思を尊重し自由な生活が出来る様話し 合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックや視診を行い、常に入居者の変化や異常の発見に努め、速や かに報告対応出来る様にしている。又情報が職員全体に伝わる様連絡ノートや申し送 りにて情報の伝達を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている。	個々の服薬シートをファイルしておき、職員は常に確認することが出来る様になってい る。薬は手渡し、又は口腔内へ投薬することで服用を確認している。薬の変更があっ た場合は、連絡ノートにて必ず報告し全職員に伝えている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日々の記録に排便状況を記入し把握している。排便が困難な入居者には乳製品や食 物繊維の摂取を促し、運動量や水分量・マッサージ等の働きかけを行っている。	○	レクリエーションの中で運動量を増やしていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている。	毎食後の口腔ケアの徹底を行っている。一人では行えない方には、職員が介助し感 染予防に努めている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事量や水分量を毎日記録している。摂取量が少ない方には声掛け等 をし、増量を促している。又月に一度献立のカロリーチェックを専門機関に依頼し、バ ランスの見直しを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し全職員理解されており、具体的な予防を行っている。入居者・職員共に予防接種も必ず行っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、シンク・布巾の消毒、まな板も毎夜消毒し清潔に努めている。食材も新鮮な物を使い、残った物は早めに使い切る様にしている。冷蔵庫の消毒も毎週行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の周りにプランターやベンチを置き、入居者の家族や近隣の人達が安心して出入り出来る様、暖かな雰囲気を作り出している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには季節感を意識した飾り物や花を置いたりして、家庭的且つ明るい雰囲気を作り出している。又不快な音や光に配慮し、落ち着いた居心地の良い生活空間を作り出している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々の状態や気の合った入居者同志で談話したりくつろいだ雰囲気でも過ごせる様、ソファの配置の工夫や喫煙スペースの設置・食卓の利用等自由になっている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族に協力していただき、本人の使い慣れた物・見慣れた物・お気に入りの物を持ってきていただき、以前と変わらない暮らしが送れる様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度・温度は定時にチェックし調整している。換気をこまめに行い、不快感を持たない様配慮し、消臭剤等も使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の身体状況に合わせて手すりを設置したり、段差解消の為のスロープも設置している。低い家具等を置き、フロー内を見やすくしたり、明るくする工夫を行っている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人の出来る事・出来ない事を把握し、混乱や失敗を防ぐ様努めている。出来た事に対しては共に達成感を味わい、意欲的になれる様働きかけ、出来なかった時にも気分が沈まない様さりげない声掛けを行っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランターや花壇に花を一緒に植えたり、水やりを行っている。天気の良い時には、外のベンチにてお茶を飲んだりして入居者同志会話を親しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ ほぼ全ての利用者</li> <li>㉒ 利用者の2/3くらい</li> <li>㉓ 利用者の1/3くらい</li> <li>㉔ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ 毎日ある</li> <li>㉒ 数日に1回程度ある</li> <li>㉓ たまにある</li> <li>㉔ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ ほぼ全ての利用者</li> <li>㉒ 利用者の2/3くらい</li> <li>㉓ 利用者の1/3くらい</li> <li>㉔ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ ほぼ全ての利用者</li> <li>㉒ 利用者の2/3くらい</li> <li>㉓ 利用者の1/3くらい</li> <li>㉔ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ ほぼ全ての利用者</li> <li>㉒ 利用者の2/3くらい</li> <li>㉓ 利用者の1/3くらい</li> <li>㉔ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ ほぼ全ての家族</li> <li>㉒ 家族の2/3くらい</li> <li>㉓ 家族の1/3くらい</li> <li>㉔ ほとんどできていない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

①入居者を主体とし、一緒に過ごす中で喜怒哀楽を共感し、支え合う関係を築いています。 ②入居者一人一人がその人らしく生活し、楽しい日々が送れる様支援しています。 ③家族・近隣の方がいつでも気軽に立ち寄っていただける雰囲気を作っています。